

月高だより

北海道札幌月寒高等学校
第 60号
令和8年7月22日発行
発行者 校長 黒島 敏

■夏休み

いよいよ夏休み。とはいっても講習で学校に通う毎日が続きますが、家で勉強するって言うてもなかなか手に着かない生徒もいるでしょう。私もそのタイプでした。自分が高校生の時は予備校の夏期講習に通っていましたが、勉強というよりは講習帰りに友人とあちこちに寄り道して、飲食したり、冷房のきいた300円で入場できるB級映画館で涼むのが楽しみでした。

札幌駅界隈もその頃とは大きく変わり、懐かしい場所もみんななくなってしまいました。仕方ないこととはいえ、ちょっと寂しい。

ところでコロナ時期に在宅勤務がメジャーになりましたが、7月14日付けの日経新聞に「GMO、在宅勤務を廃止」という記事が出ていました。GMOは大手インターネット企業ですが、社長によると、在宅で生産性が上がる人がいる一方、時間当たりのパソコンのタイピング数は減ったため「トータルで在宅勤務はマイナス」との判断とのこと。

「家にいる人のタイピング数を監視しているの？」とちょっと不気味に思ったのですが、考えてみればスマホやクレジットカードを使って、地下鉄やショッピングに利用したら、どこに行っても何を買ったか常に企業によって把握されているというのと同じことですね。ともかく、最近では在宅勤務は下火の傾向のようです。私の知り合いに在宅勤務が可能な仕事をしている方がいるのですが、その方曰く、「やっぱり周りに人がいないと仕事が進まない」んだそうです。ファミレスやカフェで勉強している人も同じような種類の方なのでしょう。時代は変わっても人間は他と関わっていないと生きていけないということを本能的に感じているのかもしれない。

■ギユられる？

先日教員向けの雑誌『内外教育』7月7日(火)号を見ていたら、こんな記事が出ていました。以下長いので要約を箇条書きにて記します。

- ①「キャリア官僚」を選ぶ国家公務員試験で東大出身者が5年ぶりに増えた。
- ②取材した先の元東大教授によると「東大生はさといので、将来ギユられない仕事として公務員を選んだのではないかと」のこと。
- ③6月初めの日経新聞に、ニューヨーク大学の大学院で情報システムを専攻した学生が就職先が見つからず苦労している、という記事が掲載。新人がする仕事がAIに奪われたことが原因ではないかとのこと。

ここで「ギユられる」という言葉を解説すると、「シンギュラリティにやられる」を縮めたネットスラングで、「シンギュラリティ（技術的特異点）」によって「AIに仕事や役割を奪われる・代替されること」指すようです。

『内外教育』の記事では、霞ヶ関の官僚の仕事である、政策や法案を作る仕事もAIにさらわれそうだが、「永田町の政治家対応」という非常に泥臭い仕事だけはAIには無理だとしています。議員会館の「センセイ」達の部屋を回って頭を下げて根回しをする、そんな仕事はAIヒューマノイドにもできないだろうと。ドラえもんならできるとも思えないですけど。

AI時代に大切になる、人の役割として「対話」や「説得」が挙げられることも多いのだそうです。確かに我々のリアルな人間関係は「根回し」が必要なが多いですね。

ところで、よく、「AI時代になくなる仕事」というのが話題になるけど、新聞を見ているとなんとなく想像は付きますね。例えば「電車の運転手」これは地下鉄とかがすでに自動運転になったりしています。「事務員」かつて女性の花形職業だったタイピストがいなくなったように、単純な打ち込み仕事とかはなくなりそう。「オペレーター」既にAI音声とかになっている。

アメリカの現在（いま）は日本の数年後となることが多いから、今は就職が売り手市場だけど、特に金融やコンピュータサイエンスの分野で就職難の時代が来るかもしれないなとちょっと思います。すでに日本では就職先として「総合商社」の人気の高まっているようです。

そんなAIを開発している、Anthropic（アントロピック）のCEO ダリオ・アモデイは、「20代の若者はいま、どんな分野に力を注ぐべきか？」という問いに対して、「物理世界と人間中心のタスク、人と人とをつなぐ仕事」と答えたそうです。

どんな仕事なんだろう？ 仮想世界ではない人間中心の仕事。泥臭い仕事。やっぱり教員か〜。

■あとがき

私にとって初めての月高祭。色々な先生方が学年通信などに書かれていましたが、大変盛り上がりました。そして上級生・下級生関係なく、それぞれに声援を送りあう、たいへんあたたかい雰囲気の子供たちの様子がとても印象的でした。生徒会執行部の皆さんも新しいことにチャレンジしようとしていて、それを生徒達が応援している姿も好印象でした。悪天候にもかかわらず、先生方も柔軟に対応してくれて、しかも私が想像する以上の来校者の方々がいて、大盛況でした。中学生もたくさん来てくれていたようです。ぜひ来年受験してくれることを期待したいところです。月高は校舎は古いですが素晴らしい生徒が集まっているところが魅力です！！

ところで、私は常々、「なににつけても新しいことにチャレンジしていかないと後退する」と思っています。「例年通り」「前任者を踏襲」こればかりをすると、なんとなくダメになっていく、経験から来る実感です。意外と真理に近いと思うので、ぜひ在校生の皆さんはちょっとでもいいから、次年度さらに新しいこと、モノに挑戦していただきたいですね。もちろん伝統とかも大事ですが、バランスですよ。

悪天候と言えば JOINALIVE。結構雨に当たることの多いイベントですが、今年も雨でした。しかも2日間とも。私は初日しかチケットがとれなかったの、1日だけでしたが、それでも「これは何かの修行か？」というぐらい雨に当たりました。私は家が近いからいいけど遠くからきていた人の健康を祈ります。まあそれは仕方がないのですが、入場者が例年より大幅に多いのにもかかわらず誘導などの運営が従来通りだったため、結構混乱が見られたようです。

やっぱり何事もやり方を更新して、かつ柔軟に対応することが大事ですね！